

第7回子どもとメディア全国フォーラム

スマホ社会の子どもたち

その危険と可能性



2014年 (平成26年) **2月22日** **土** **23日** **日**
13:00~17:30 9:30~15:30

資料代 **3,000円**

1日のみの参加でも同額となります

定員 **300名**

会場

福岡市男女共同参画推進センター・アミカス ホール
福岡市南区高宮 3丁目3-1

主催 NPO 法人 子どもとメディア

共催 一般社団法人 日本小児科医会 福岡市教育委員会

後援 福岡県 福岡市 福岡県教育委員会

(一部予定を含む) 朝日新聞社 西日本新聞社 NHK福岡放送局 毎日新聞社 読売新聞社 株式会社少年写真新聞社

委託事業 文部科学省スポーツ青少年局委託「青少年を取り巻く有害環境対策の推進事業」
(22日全体、23日B1分科会)
文部科学省初等中等教育局委託「いじめ対策等生徒指導推進事業」
(23日A1分科会)

開催背景と目的

スマートフォン（スマホ）が、中高生や若い親たちの間で爆発的な広がりを見せています。

LINE（ライン）というアプリなどを使った無料のメールや電話が、子どもや若者の普通のコミュニケーション手段になり、“鬼から電話”などのアプリを使った「スマホ子育て」をする母親、父親も珍しくなくなっています。

いずれも5年前にはなかった光景です。

しかし一方で、犯罪に巻き込まれる、悪意が増幅するといった危険性や親子の愛着形成の異変も指摘されています。厚生労働省の研究班は、2013年8月、中高生の8.1%、51万8千人が「ネット依存」に陥っているという調査結果を発表しました。

今回のフォーラムでは急速に普及が進むスマホや、ネット接続が可能な携帯ゲーム機などによって劇的に変わりつつある子どものネット環境に焦点をあて、子どもの育ちの危険と可能性を探ります。

なお、フォーラムの中では、NPO子どもとメディアが2013年度文部科学省から委託されて取り組んでいる二つのプログラム、スマホ時代の中高生ネット教育プログラム「SSP」、メディア依存対策プログラム「DREAM」の試行結果を報告します。

22日
(土)

福岡市男女共同参画推進センター・アミカス ホール

※文部科学省スポーツ青少年局委託「青少年を取り巻く有害環境対策の推進事業」

受付

12:30～

開会行事

13:00～13:15

基調講演

13:15～14:15

ひとりが怖い～ネットコミュニケーションの光と影～

講師 土井 隆義（筑波大学人文社会系教授）

現代の友だち関係は、自由な緩やかさという明るい表情と共に、強烈な不安の源泉という暗い表情も併せもっています。相手を選べる自由は、相手から選ばれないリスクと表裏一体だからです。そのため、つねに相手とつながり、その動向をうかがっていないと安心感を得づらくなっています。ネット依存といわれる現象も、このような心理状態から生じている面が強いようです。この講演では、その社会的な背景について考えたいと思います。

中高生のネット教育プログラムSSP (Smart Student Program) 紹介

14:15～14:25

2013年実施のスマホ時代の中高生ネット教育プログラムSSPの概要紹介と実践報告です。

調査報告「小・中学生のメディアに関する意識と生活」調査

14:25～14:35

福岡市教育委員会生涯学習課と共働で行った「小・中学生のメディアに関する意識と生活」調査報告。2010年と2013年との経年比較調査です。

子ども・若者・大人のラウンドトーク

14:45～17:30

良くなる？悪くなる？スマホ社会

若者
子ども

吉田 拓巳（高校生IT起業家、VJ）
ネット依存サバイバー
大学生
中学生（SSP参加者より）

大人

土井 隆義（筑波大学人文社会系教授）
清川 輝基（NPO子どもとメディア代表理事）
内海 裕美（日本小児科医会
子どもとメディア委員会担当常任理事）
置鮎 正則（オフィスラバーリング）

進行 古野 陽一（NPO子どもとメディア専務理事）

スマホ社会（ネット機器を誰もが持ち歩き日常生活に欠かせないとする社会）が出現しています。子ども・若者に見えているものと、大人が見ているものに違いはあるのでしょうか？それぞれに見えている危険と可能性はどんなものでしょうか？

互いの感覚・考え・思いを言葉に託して語り合う中に、スマホ社会の現実と未来が見えるでしょう。

23日
(日)

福岡市男女共同参画推進センター・アミカス 大ホール・視聴覚室・研修室

分科会・ワークショップ A 9:30~12:00

分科会・ワークショップ B 13:00~15:30

A1

メディア漬けから脱けだすために ～きっかけと約束～

※文部科学省初等中等教育局委託「いじめ対策等生徒指導推進事業」

登壇者 長阿彌 幹生 (教育文化研究所代表)
不登校・ネット依存からのサバイバー
DREAM 参加保護者

進行 山田 真理子 (NPO子どもとメディア代表理事)

この分科会では、メディア漬けの背景となるコミュニケーションのつまづきや希薄さ、Real な生活での自信のなさや自尊心を快復する方法を登壇者と共に探り、その一助としてメディア依存対策プログラム「DREAM」を提案します。

各地で対策を提起する立場の方々や保護者がこの流れを丁寧に実施してゆくことは、メディア依存から子どもを解放してゆく助けになると思われます。

A2

スマホ社会の乳幼児子育て ～子育てのスマホリテラシーを考えよう～

登壇者 佐藤 和夫 (九州医療センター小児科 医長)
原 陽一郎 (九州大谷短期大学幼児教育学科 教授)
佐伯 美保 (NPO 法人福岡津屋崎子ども劇場理事)
乳幼児子育て中の親

スマホで育児友達と連絡しあい SNS で悩みを相談する親御さんが増えています。

スマホのアプリ「いないいないばあ」「ガラガラ」等で赤ん坊をあやす、「鬼から電話」で子どもをしつける…。

外来小児科学会ワークショップの調査では3割のお母さんがスマホを子育てに使っています。子育ての現場でスマホはどのように使われているのか、その便利さと問題点は？

皆さんとスマホ社会の子育て、スマホリテラシーを考えます。

A3

インストラクター技術研修 ～子どもを守るスマホ設定～

登壇者 工藤 陽介 (株式会社デジタルアーツ)
置鮎 正則 (オフィスラバーリング)
大町 俊介 (長崎県メディア安全指導員)

スマホ・ネット等のリスクや対応方法を、児童・生徒や保護者・教員に対して行っているインストラクターに向けた講座です。

保護者が子どもにスマホを渡すときにやっておくべき設定を実機操作しながら学びます。

B1

体験版! 中高生のネット教育プログラム SSP (Smart Student Program)

～スマホ時代の中高生ネット教育プログラム～

※文部科学省スポーツ青少年局委託「青少年を取り巻く有害環境対策の推進事業」

登壇者 的場 浩二 (筑紫野市立筑山中学校教諭)
遠藤 美季 (エンジェルズアイス代表)
NPO子どもとメディア SSPファシリテーター

進行 古野 陽一 (NPO子どもとメディア専務理事)

現代の中学生・高校生は、スマホが日常的な機器となり、ネット社会との関わりが当然のこととなっています。一方で、人との直接のコミュニケーション、自己表現、言葉の力が低下しているとも言われます。1時間程度の講座形式のネット教育の効果は限定的です。

2時間×3回のワークショップ形式のSSPではどんなことを行うのか、体験する場を提供します。実践報告では、中学生が何を考えどう行動したかをお伝えします。

B2

いま! テレビのことを考えよう ～家庭で行うメディアリテラシー学習～

登壇者 青木 茂人 (元NHKアナウンサー)

進行 NPO子どもとメディア メディアリテラシー部会

一番身近なメディアであるテレビ。気がつかないままに、テレビの情報が、あなたの日常生活を支配していませんか? あなたや家族にとって、テレビはどんな存在なのでしょう?

「テレビの向こう側」を少し覗いて、テレビとの付き合い方を考えてみましょう。子どもとメディア発行のリーフレットを使って、メディアリテラシーのワークショップを行います。

B3

スマホ社会の子どもの食生活 ～こころと身体で覚える『食べる』のリテラシー～

登壇者 佐々木 洋 (小児歯科医師、矯正歯科医師)
本山 茂夫 (小児歯科医師)
安藤 宣子 (司書、読書アドバイザー)

進行 濱野 良彦 (NPO子どもとメディア理事)

授乳から始まる人の食生活には、「食する」ための様々な環境が影響することで食習慣ができあがります。この半世紀で日本の食生活に大きな変化が見られるなかで、特に医療からの視点で乳幼児の食生活を見てみると、子どもたちの将来に不安を感じるのですが、皆さんはどのようにお考えでしょうか?

スマホ社会の育児では「食」についてどのような現状なのか、皆さんと一緒に考える時が来たと考えています。

